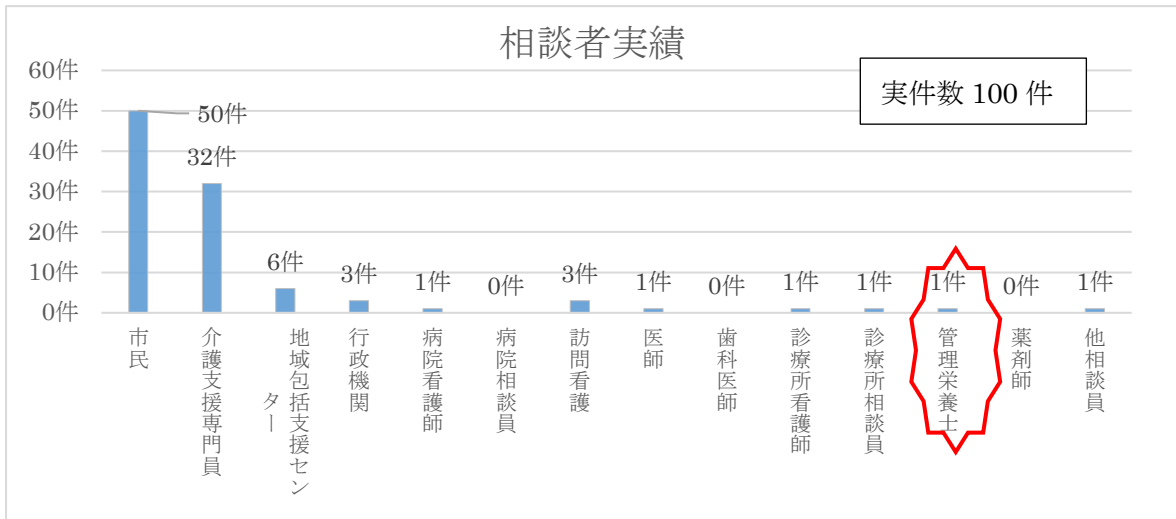
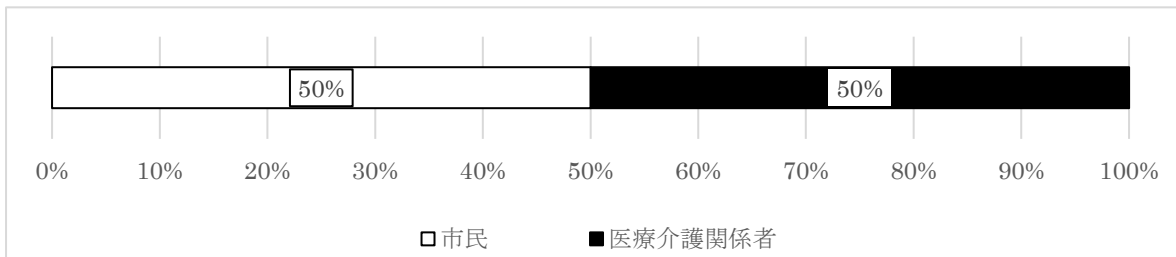


1. 令和 4 年相談実績報告



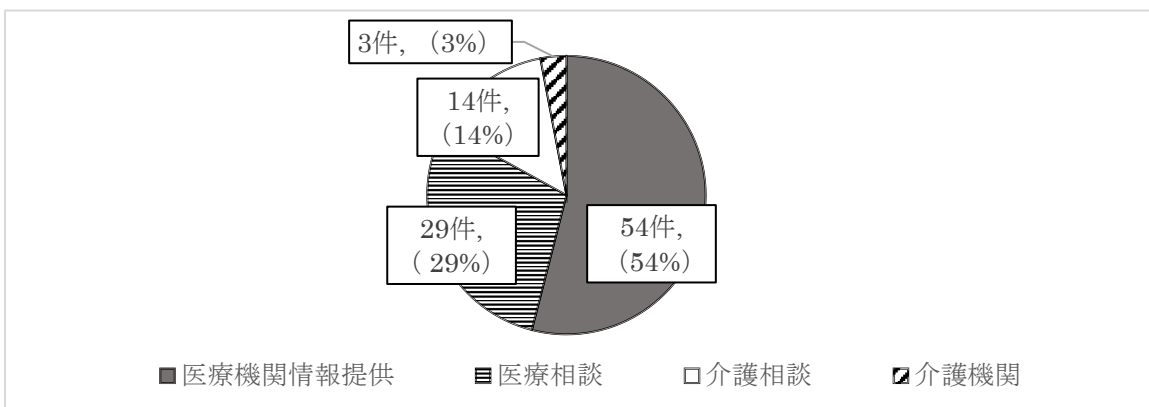
□ 相談者に占める市民と医療介護関係者の割合



(1) 職種別相談者実数内訳

- ・ 医療介護関係者と市民ともに相談が 50%
- ・ 昨年同様に介護支援専門員からの相談が増加している。
- ・ 今までにはなかった管理栄養士からの相談依頼があり、多職種への周知がされてきたと感じる。

(2) 相談内容からみえる現状



【詳細内容】

- ・ 医療機関情報提供 市民、専門職ともに訪問診療や専門の診療科に関する紹介、コロナ関係等認知症と内科や外科などの複数科受診紹介が多い。緊急往診調整依頼もあり。
- ・ 疾患に関する内容、医療相談 . . . 今年度は医療そのものの相談が 29%と多くみられた。
病気のこと（胃ろうについて等）、意思決定支援に係る事等。
- ・ 介護相談 . . . 介護保険サービス等の利用に関すること、地域包括支援センターの紹介等

<令和4年度の実績から見える課題>

<p>実績と傾向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師会ホームページ上に、窓口専用ページを作成。 ・ 自治会、老人会、高齢者住宅等で在宅医療についての講演等も実施。 ・ 12月に介護支援専門員向け勉強会実施 <ul style="list-style-type: none"> → 口コミやホームページからの問い合わせ、介護支援専門員からの相談数も増加。 ・ 窓口ニュースを6月は認知症、12月は人生会議をテーマにし発行。 <ul style="list-style-type: none"> → 認知症支援チームの紹介や看取りについての相談も増加した。 ・ 病院相談窓口一覧表以外に、新たに、訪問看護ステーションリスト、他併用医療機関リスト（内科と認知症な）をホームページ上で閲覧可能にした。 <ul style="list-style-type: none"> → 関係機関から「活用できた」と声をいただいている。 ・ 医療依存度の高いショートステイや、コロナ濃厚接者のショートステイ紹介希望等もあり。 ・ 訪問診療医療機関紹介 27件のうち緊急往診へのつながりも3件対応。緊急入院紹介依頼時には、窓口が病院への橋渡しをすることで、即日入院可能になったケースもあった。 ・ 市境の方の診療紹介依頼もあり。 <ul style="list-style-type: none"> → 他市医療機関の利用が便利な方もおり、近隣5市MCSグループの利用で、速やかに相談対応出来る体制が整ってきている。 相談内容は多様化しており、直接医療機関への連絡や橋渡しも必要になっている。
<p>考察(課題)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅医療や療養や窓口の認知度も少しずつ向上はしているが、まだまだ低いと感じる。 ・ 複数科併用医療機関の紹介依頼が多い。医師会のホームページの情報活用度が不明瞭。 ・ コロナ禍で、顔の見える関係づくりが希薄になり、新規開設事業者が関係づくりに苦慮。 ・ 市境の方への相談支援をMCSで実施しているが、今後近隣市の更なる連携の強化が必要である。

令和5年度の計画

課題	対策	計画
<p>・在宅療養や在宅医療についての認知度や、相談窓口の認知度が低い。</p>	<p>・ 周知活動や広報の方法を検討。窓口ニュースの内容、ホームページ内容充実を図る。</p>	<p>・ 年2回の窓口ニュースの発行を継続。 ・ 医師会ホームページの内容を修正。 ・ 市民向けの在宅療養について講演会等を実施。</p>
<p>・ 専門職向けに、他科併用可能医療機関や訪問看護ステーション一覧表を医師会ホームページ上で閲覧可能にしているが、専門職からも併用医療機関の紹介依頼が多い。</p>	<p>・ 引き続き、ケアプロ等への掲載で周知。特に、支援者向けに特化した周知活動を実施。</p>	<p>・ 医療資源リスト、訪問看護ステーションリスト、病院相談窓口一覧表の更新と、利用方法の周知。(ケアプロへの掲載、介護支援専門員向けのチラシ配布と連絡会でのPR等)</p>
<p>・ コロナ禍で、顔の見える関係が薄れている。</p>	<p>・ 連携強化のための顔の見える関係づくりの支援を行う。</p>	<p>・ 医師会と訪問看護ステーション連絡会を企画・運営。連絡会は年2回実施。</p>
<p>・ 市境の方の相談支援が困難である。</p>	<p>・ 近隣5市の継続的な連携強化が必要。</p>	<p>・ 5市(稲城・日野・八王子・町田・多摩)の窓口連絡会を年2回実施。MCSを利用し継続相談する。</p>

